

プラザと球技開放などの調整を行う。③ハイテーン会議のメンバーなどと話す機会を持つてきた。今後も機会をとらえ、要望を聞きたい。

中野駅北口の文化継承を

①中野は沖縄文化が盛んである。この文化が継承できる場を中野駅北口整備計画の中に盛り込んで、中野駅北口を中心に行われた中野チャンプルーフェスタが第二回東京商店街グランプリを受賞した。区役所にトロフィーなどを展示し、区民にアピールしては。③中野チャンプルーフェスタのスタッフが、うるま市宮城島で、三線の材料となるクロキを植える



中野チャンプルーフェスタ

活動を始めた。行政も交流を始めては。

区長

①駅周辺整備の全体を考える中で、あり方などを検討したい。②区役所にトロフィーを展示するなど、グランプリの受賞と中野の商店街の元気をアピールしたい。③今後、自治体間交流に発展しうるか、状況を見守りたい。

新しい公共経営への理解に向け工夫と努力を

市民自治 はっとり 幸子



区長は財政再建への期待を担い、就任以来、区財政建て直しを進め、新しい時代のニーズにこたえて、区民サービスを充実させてきている。この成果を区民にもっと伝えるべきだ。また、持続可能な自治体と

して次世代に引き継ぐための今後の施策の必要性について、区民や職員への説明責任が果たされているか。区長自身どのように受け止めているか。

区長

新しい取り組みについて理解を得るには、狙いをしっかりと説明していくと共に、具体的な成果を示していくことが重要である。今後とも十分に説明と議論をしながら区政運営にあたっていく。

経営改革へ積極的な外部人材登用を

区の経営革新5か年プランでは、複雑・高度化



小学校の米飯給食

する行政ニーズに速やかに対応するため、内部では得られにくい高度な専門的知識や経験を持つ外部の人材を区政運営に生かすことが記されている。サンプラザ問題をはじめ、区民やNPO、企業などの協働を進める経営改革に向け、これまでの区政運営では予想もつかない事業の展開が今後増えてくると考えられる。現在の検討状況と今後についてはどうか。

区長

任期付職員制度や経験者採用制度を、区政のあらゆる場面で活用して人材確保を図っていききたい。

食育の取り組みにホカホカの米飯給食を

子どもたちの健全な食生活が失われつつあり、解決への道筋がなかなか見えてこない。区だけの取り組みには限界があるが、健全な食生活が失われつつある子どもたちの危機的状況を救うためには、教育のみの問題ではなく社会の横断的な対応が必要である。高知県南国市では教室に家庭用の炊飯器を設置し、炊きたてのご飯を学校給食に提供して成果をあげている。子どもたちの健全な育ちを応援し、健全な食への突破口にすべく、区で導入する考えはないのか。

区長

現在も米飯給食は給食の時間に合わせ、炊きたてのご飯に近い形で提供している。教室での炊飯器による炊飯は、衛生管理や設備の問題などの課題がある。学校や保護者の意見を聞きたい。

家庭教育の大切さを見直せ

自由民主党・民社クラブ 小串 まさのり



地域のソフトボール大会

子育てや教育では、家庭、学校、地域の連携が重要であり、特に家庭の役割は大きい。子どもにとって一番大切なものは、温かい家庭である。家庭には家庭にしかできないことがあり、家庭でこそやらなければならない教育やしつけがある。家庭教育が本来果たすべき役割について、区はどのように考えているか。

区長

家庭は子どもの養育や発達について第一義的責任を負うが、近年、責任を持つて養育できない親も目立っている。親の養育力を向上させ、家庭教育の責任を果たせるよう支援すると共に、地域全体での環境づくりが大切と考えている。

地域の教育力向上を

①地域の教育力を高めるためには、青少年育成地区委員会や子ども会などの強化・育成を図る必要があるが、区はどう取り組むのか。②地域の果たすべき役割について考え、地域の会社、商店、事業所などの潜在的な力を生かして、地域の教育力を高める努力をすべきと考えるがどうか。

区長

①地域ぐるみで教育力を高めるため、地域の育成団体が果たす役割は大きい。今後設置予定の地域子ども家庭支援センターやU18プラザ

きな役割を果たす。今後、商店などの連携や情報提供の機会をつくっていく。

少子化対策を拡充せよ

①少子化対策には、ありとあらゆる施策展開が必要であるが、これについては区はどう考えているか。②区長が20、30歳代の若者と交流する機会を設けると共に、子育て体験を共有するための親子交流の場を設けてはどうか。

区長

①少子化対策を進めるには、行政、家庭、地域の役割を見極め、さまざまな施策を組み合わせ、総合的に推進することが不可欠と考える。②若い人たちの意識や価値観の把握に努めると共に、子育て期の喜びや達成感を共有することも大切であるため、乳幼児親子の交流の場などを拡充していく。

今こそ学校教育の課題に積極的に取り組み

公明党議員団 飯島 きんいち



①いじめ問題に対して「いじめを許さない、将来ある命を絶たせない」という関係者の議論と姿勢をメッセージとして示すことが大切と考えるがどうか。また、心理的抵抗が少なく、いつでも相談でき、秘密も守れるメール相談を実施しては。

区長

②学校統合により、これまでより通学距離が長くなる児童・生徒の、通学路の安全確保をどのように考えているか。③統合新校を設置する桃



小学校の通学路

園第三小学校の体育館は、教

育環境整備や防災対策のほか、建築基準法既存不適格の解決に向け改築すべきでは。

教育長 ①教育委員会や学校、家庭・地域が連携し、全力で取り組むメッセージの発信方法を検討したい。メールによる相談受付も検討する。

区長

②交通安全施設の整備やスクールゾーンなど、教育委員会や交通管理者と十分協議し交通安全対策を進めたい。③体育館機能のほか、遊び場や学童クラブなど必要な機能を検討し、さまざまな課題解決に向け、具体的な改築の手法を考えたい。

区民の夢を応援する総合奨学金制度創設を

年齢、性別を問わず、実現したい夢への意欲と、現実的なプランを持つ人を応援する必要性を訴え、総合奨学金制度創設を提案したが、現在の研究状況はどうか。まずは中野区の年間寄付金の1%を奨学金基金として積み立て、事業を開始してはどうか。

区長

個人情報保護などの観点から、配達記録郵便での送付を検討している。これにより、安全・確実に送付でき、保険証への二次元コード装着が義務化されても、個人情報保護上の問題は生じないと考えている。

大増税による区民のいたみを和らげよ

日本共産党議員団 小堤 勇



①大増税により「非課税」から「課税」になったことで、行政サービスを享受する際の負担が増した区民も多い。このような中、区民の負担を軽減する措置を講じる区が増えている。区は、区民の犠牲のうえにある財源を、区民の暮らしを支えるために使うべきである。大増税による痛みから区民の暮らしを守る「いたみ緩和策」を講じるべきではないか。②区民が不利益を被る

区長

①区の歳入は、最適な方法で活用しており、低所得者への対応も、さまざまな施策の中で講じている。②減額制度は、加入手続き時のほか、毎年納付書とともに制度の案内を送付するなど、適切な周知に努めている。